

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標</p> <p>賢く 優しく 逞しく</p>	志木市立志木第三小学校
		平成30年度 第10号
		平成31年1月8日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数 1月1日現在583名



## 教育の不易流行

校長 可知 良之

新しい年を迎えました。おめでとうございます。平成から新たな元号へと向かい最後の学期となる第3学期、いのしし年に相応しく猪突猛進といきたいところです。

教育にとって平成の30年間は実に変化の激しい時代でした。そうした時代に対応すべく子供たちの日常生活はまるで時間と戦っているようにさえ思えてなりません。

教育には「流行」があると言われていきます。プログラミング教育・ICT教育・小学校での外国語などが最近の流行と言えます。こうした流行が入れ替わり立ち替わり出ては消え、消えては出てきたのが平成の時代でした。その一方で、放課後、校庭で遊んでいる子どもは激減しました。特に異学年同士での遊びは社会性を育む貴重な学びの道場でした。放課後の遊びという概念そのものが消えてしまいそうです。昭和の時代、教員である私が子供から教わった遊びもたくさんありました。お金も道具もいらない遊びです。けれども誰でも参加でき日が暮れるまでいくらでも遊んでいられました。本当に豊かな時間を過ごしていたように感じます。宿題は夕食の後にやっていたのでしょ。それでも学力は決して低くはありませんでした。社会の変化は激しくても子供たちの社会では思った以上にスローなペースの方が良いのではないのでしょうか。子供たちのペースに合わせた1日の過ごし方をもっと考えていく必要がこれからの時代の教育には必要だろうと思います。流行にのみ惑わされないしっかりとした教育を進めていきたいものです。

教育にはもう一つの側面、「不易」があると言われていきます。不易とはいつの時代にあっても変わることなく、あり続けていきたい本質とも言えるもののことです。以前、年頭のご挨拶で「5S」について書いたことがありましたが、私はこの5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰の頭文字を取って5つのSとしています）は、子供たちの教育における大事な不易の一つと考えています。特にその中でも「躰」は子供から大人に至るまで新しい変化に直面したとき身の処し方を決める量りとなるものだと思います。恥ずかしながら私自身も鉛筆の持ち方についてはしっかりと躰が身に付いておりませんでした。そのせいか時折、腱鞘炎になり困っています。食事の仕方も然り、肘をついて食べる癖はなかなか直りません。自分では気が付いていないのかもしれないかもしれません。挨拶はいかがでしょうか。学校での躰は学校で、家庭での躰はご家庭で、社会人としての躰は社会が率先してそれぞれの場で学んでほしいと思います。

平成最後の3学期、今、この時こそ不易と流行を意識しながら学ぶべき時かと念頭に際し深く感じました。学校で子供たちが過ごす毎日が「今日も楽しく明日が待たれる豊かな学びの場」であることを願いつつ、地域や保護者の皆様には、今学期もどうぞご支援ご協力よろしく願いいたします。

「不易流行」

松尾芭蕉が説いた俳諧の理念とされています

